

第7回血管内留置カテーテル管理研究会 プログラム

12月15日(土) 大阪大学 コンベンションセンター

9:30 ~ 9:35	開会の挨拶 当番世話人 井上 善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門)
9:35 ~ 11:45	シンポジウムⅠ『PICCの現状と問題点(1)』 座長： 吉川 正人 (東宝塚さとう病院 外科) 根津 理一郎 (西宮市立中央病院 外科) SY1-1 NSTを活用したPICC普及活動と栄養教育 内田 洋一朗 (北野病院 消化器センター 外科) SY1-2 当院におけるPICC挿入症例の検討 木許 健生 (神戸海星病院 外科) SY1-3 PICCにおける血管留置カテーテル関連血流感染 (CRBSI) 起炎菌の現状 庄司 浩気 (尼崎中央病院 総合診療科) SY1-4 当院の末梢挿入型中心静脈カテーテル (PICC) の現状 目黒 英二 (函館五稜郭病院 臨床検査科) SY1-5 PICC導入後9年経過 ; 導入まで、導入後、成績、合併症などの報告 上野 正紀 (虎の門病院 消化器外科) SY1-6 PICCカテーテルはカテーテル関連血流感染症を減少する—脳神経外科領域に関して— 中山 晴雄 (東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科) SY1-7 入院進行がん患者に対する耐圧式末梢留置型中心静脈カテーテルの安全性～Power PICCの使用経験～ 高橋 義和 (大崎市民病院 腫瘍内科)
11:55 ~ 12:55	ランチョンセミナー『CVポート；より安全に。より確実に。』 患者にとって最適なCVポートを考える ～外科医の立場から～ ※1 ～IVR医の立場から～ ※2 座長： 井上 善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門) 演者： ※1青松 直撥 (生長会 府中病院 外科) ※2前田 登 (大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 放射線診断・IVR科) 共催： 東レ株式会社/東レ・メディカル株式会社
13:05 ~ 13:10	事務連絡 当番世話人 井上 善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門)
13:10 ~ 14:40	シンポジウムⅡ『PICCの現状と問題点(2)』 座長： 野呂 浩史 (JCHO大阪病院 外科) 林 泰生 (市立敦賀病院 外科) SY2-1 当院におけるPICC使用についての現状 岡崎 由季 (大阪市立十三市民病院 外科) SY2-2 当院におけるPICCの穿刺・管理マニュアル作成 飯塚 堯 (函館五稜郭病院 消化器内科) SY2-3 当院におけるPICC管理の現状報告 増田 陽介 (医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院 NPチーム) SY2-4 当院における診療看護師によるPICC挿入システム導入後の結果と課題 田村 委子 (国立病院機構 別府医療センター 診療看護師) SY2-5 当院におけるPICCの導入状況と血管内留置カテーテル選択の課題 新居田 敦子 (医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院 看護部)
14:50 ~ 15:50	企業PRプレゼンテーション 座長： 森崎 哲朗 (八代市立病院 院長)
15:50 ~ 17:30	シンポジウムⅢ『カテーテル管理の工夫』 座長： 西口 幸雄 (大阪市立十三市民病院 外科) 栗山 とよ子 (福井県立病院 内科・NST) SY3-1 大腿PICCの導入 目黒 英二 (函館五稜郭病院 臨床検査科) SY3-2 末梢血管留置に伴うカテーテル関連血流感染アウトブレイク後の取り組み～ICTとNST協働での取り組みを通して～ 白崎 智恵 (福井県立病院 看護部) SY3-3 皮膚の厚さの差異からみた上腕ポート留置部位選択の一考察—内側か外側か— 吉川 正人 (東宝塚さとう病院 外科) SY3-4 皮下埋め込み型中心静脈ポートの留置方法、留置目的別の成績の検討 野呂 浩史 (JCHO大阪病院 外科) SY3-5 CICC挿入時にヘパリンを使用しヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) を来した1例—PICC挿入看護師が管理に関わる重要性— 村田 美幸 (国立病院機構 高崎総合医療センター 統括診療部 診療看護師) SY3-6 PPN用輸液の導入針刺し換え時の輸液汚染リスク 井上 善文 (大阪大学国際医工情報センター)
17:30 ~ 18:00	イブニングレクチャー『ポータブルエコーの開発と使用方法』 演者： 井上 善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門) 共催： ニプロ株式会社
18:00 ~ 18:05	閉会の挨拶 当番世話人 井上 善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門)